

四季防災館のリニューアル基本計画

令和6年(2024年)11月

目次

第1章 四季防災館の現状

1 激甚化する災害と自助・共助	- 4 -
(1) 激甚化する災害	- 4 -
(2) 令和6年1月1日の能登半島地震	- 4 -
(3) 自助・共助の一層の充実	- 4 -
2 四季防災館の特徴、沿革	- 5 -
(1) 四季防災館の特徴	- 5 -
(2) 四季防災館の沿革	- 5 -
3 四季防災館の現状と課題	- 6 -
(1) 四季防災館の現状	- 6 -
(2) 四季防災館の課題	- 7 -
4 国内の防災関連施設の動向	- 8 -
(1) 国内の防災関連施設の調査	- 8 -
(2) 国内の防災関連施設の動向	- 8 -
5 県民、来館者アンケート調査結果	- 9 -
(1) 県民アンケート調査結果	- 9 -
(2) 来館者アンケート調査結果	- 13 -

第2章 リニューアルの方向性

1 目指す方向性	- 15 -
(1) 目指す方向性	- 15 -
(2) ありたい姿・実現したい未来	- 15 -
(3) ターゲット	- 15 -
(4) リニューアルキーワード	- 15 -
2 リニューアル方針	- 16 -
(1) 体験学習のテーマ	- 16 -
(2) 体験学習の流れ	- 16 -
(3) 体験学習の手法	- 16 -
(4) 来館者対応	- 16 -
(5) WEB連携	- 16 -

第3章 展示計画

1 展示全体構成	- 17 -
(1) フロア構成	- 17 -
(2) 体験の基本的な流れ	- 18 -
2 ゾーニング	- 19 -
(1) 1階ゾーニング	- 19 -
(2) 2階ゾーニング	- 20 -
(3) 3階ゾーニング	- 21 -
3 導入アイテムの検討	- 22 -
(1) 1階 ガイダンスと地震災害のフロア	- 22 -
(2) 2階 四季の災害のフロア	- 24 -
(3) 3階 日頃の備えのフロア	- 27 -
4 配慮すべき点	- 28 -
(1) 更新性	- 28 -
(2) ユニバーサルデザイン	- 28 -
(3) 多言語表示	- 28 -

第4章 管理運営計画

1 管理運営の現状	- 29 -
(1) 指定管理	- 29 -
2 今後の管理運営	- 31 -
(1) 多様な来館者に対応する体験プログラム	- 31 -
(2) 広報活動の積極的な展開	- 31 -

第5章 施設整備計画

1 整備スケジュール	- 32 -
(1) 整備方針	- 32 -
(2) 整備スケジュール	- 32 -

第1章 四季防災館の現状

1 激甚化する災害と自助・共助

(1) 激甚化する災害

世界の平均気温は上昇傾向が継続しており、我が国においても気候変動による自然災害のリスクは高まってきています。台風や大雨による、洪水、土砂災害、高潮などの気象災害は毎年のように発生しており、その発生頻度や発生強度は増加傾向にあります。

今後も地球温暖化の進行に伴って、気象災害の激甚化・頻発化が一層進むことが懸念されており、将来発生する可能性のある自然災害リスクと向き合い、被害の回避・軽減に向けた努力がこれまで以上に求められています。

(2) 令和6年1月1日の能登半島地震

令和6年1月1日16時10分に発生した能登半島地震では、石川県能登地方で震度7を観測し、甚大な被害が発生しました。富山県においても、富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村で震度5強を観測し、富山湾で0.8mの津波が観測されたほか、液状化によるインフラ被害や家屋倒壊が生じました。

県内で観測された初めての震度5強の地震ということもあり、多くの県民がとまどいを感じ、大地震への備えが必要との意識が広がりました。

避難面では、多くの住民が車で避難したことによる混乱や、津波被害が想定されていない地域の住民が一斉に避難したために道路渋滞が発生しました。

こうした経験から、地域の災害リスクや適切な避難行動に関して住民への十分な周知の重要性が再認識され、日頃からの備えについての一層の普及啓発が求められており、本県の体験型防災学習施設である四季防災館においては、今回の地震の経験や教訓を活かしたリニューアルが期待されています。

(3) 自助・共助の一層の充実

こうした災害を取り巻く状況が変化する中、防災・減災のための具体的な行動が求められており、行政が「公助」の充実に不断の努力を続けていくことに加えて、まずは「自助」として、地域の災害リスクを理解し、住宅の耐震化や家具の固定、食料の備蓄等による事前の「備え」を行うことや、災害体験を通じて適切な行動を行えるように準備することの重要性が増してきています。また、発災時における近所の人との助け合い等、「共助」による災害被害軽減のための取組が必要です。

一人一人が災害を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、防災・減災意識を高めて具体的な行動を起こすことにより、「自らの命は自らが守る」「地域住民で助け合う」という防災意識が醸成された地域をつくることが重要であり、四季防災館においても、その活動に資することが期待されています。

参考資料：内閣府「令和5年版防災白書」、富山県「令和6年能登半島地震に係る災害対応検証会議資料」

2 四季防災館の特徴、沿革

(1) 四季防災館の特徴

四季防災館は、自主防災組織、防災関係者の研修、県民の防災に関する知識の普及及び防災意識の高揚を図り、もって安全で安心な地域社会の形成に資することを目的に、平成24年4月に開設された施設です。



整備時の展示基本方針としては以下の5項目があげられており、富山の四季をコンセプトとしている点が特徴的です。

- ① 災害を四季でとらえる
- ② 自助+共助を重視する
- ③ 富山の災害の歴史や自然を重視する
- ④ 本格的な体験学習が行える
- ⑤ 運営負担の少ない施設とする

また、四季防災館は富山県広域消防防災センターの一部を構成しており、消防職員及び消防団員の育成を図る消防学校や災害発生時に被災地への支援拠点となる施設と併設されている点が大きな特徴となっています。

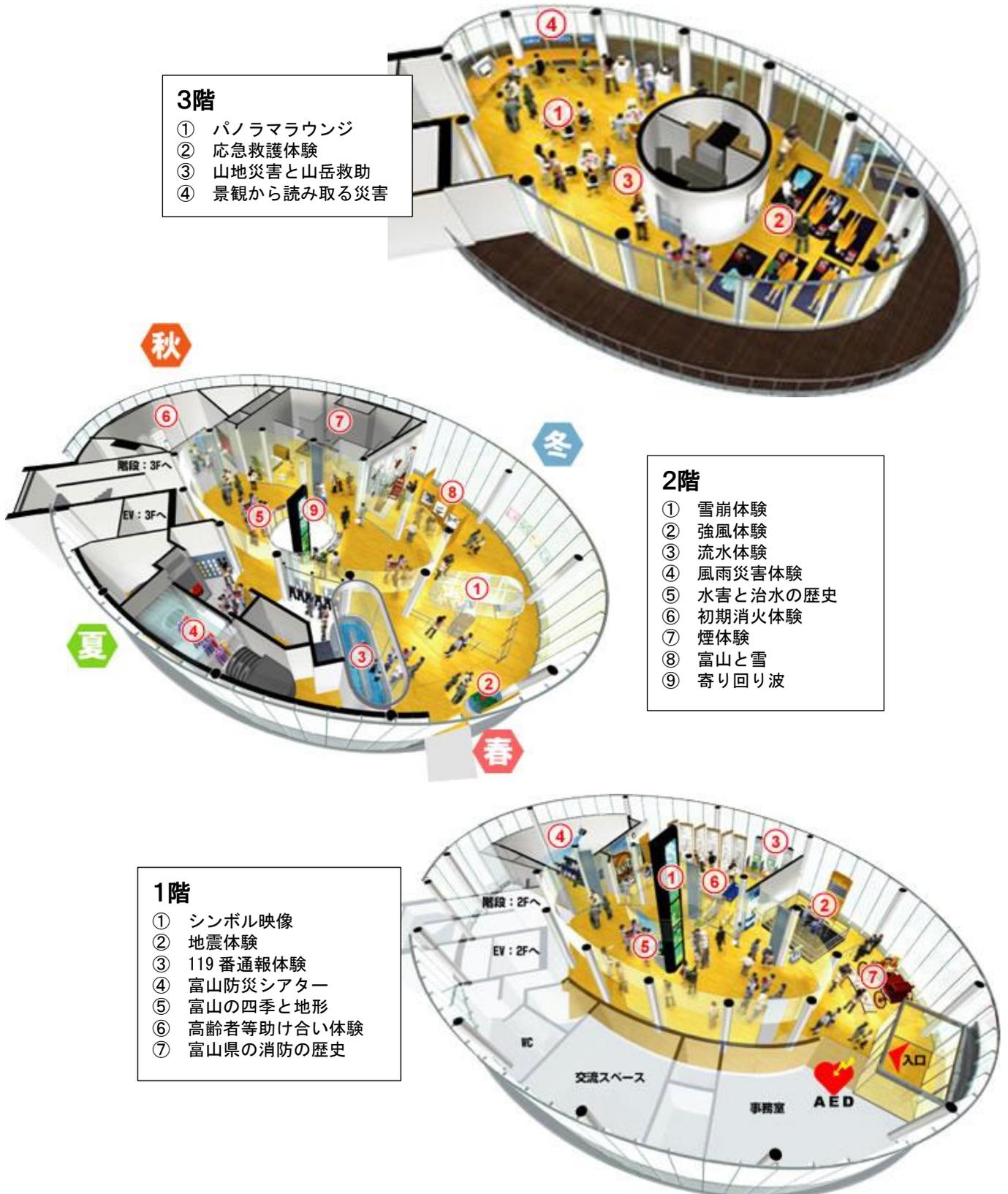
(2) 四季防災館の沿革

四季防災館は平成24年4月に開設され、現在、開館から12年が経過しています。平成24年度から令和5年度までに、県内外から352,008名の多くの方に利用されました。

3 四季防災館の現状と課題

(1) 四季防災館の現状

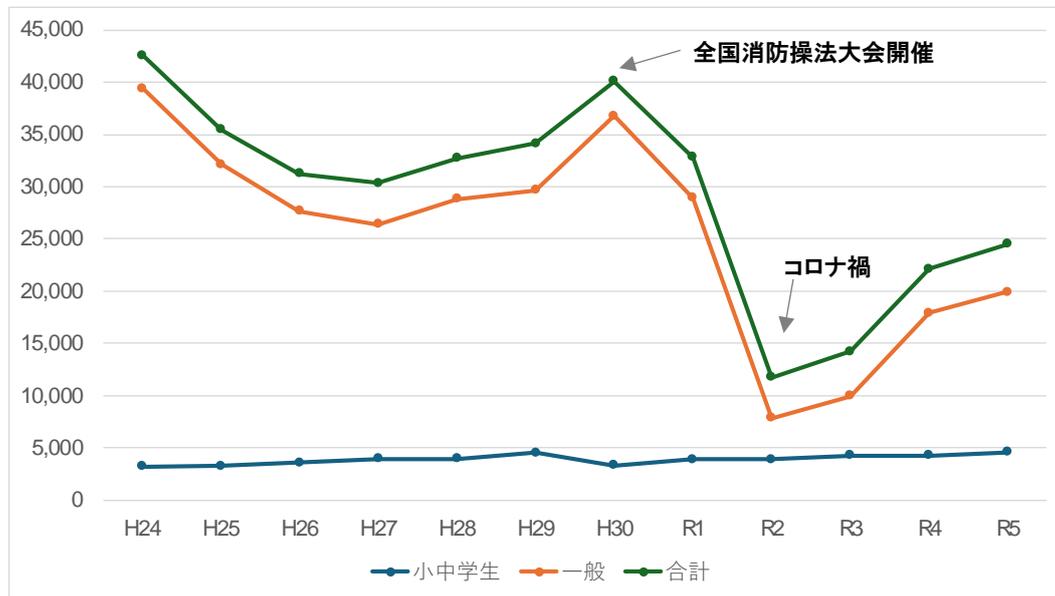
施設名	富山県広域消防防災センター(四季防災館)
所在地	富山市惣在寺1090番地 1
施設規模	鉄筋コンクリート造 3階建て 延床面積 1,001.40㎡



(2) 四季防災館の課題

■来館者数の減少

来館者数の年度別推移を以下に示します（単位：人）。



年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
小中学生	3,185	3,281	3,570	3,934	3,935	4,508	3,328	3,899	3,902	4,257	4,258	4,594	46,651
一般	39,403	32,148	27,655	26,405	28,796	29,632	36,787	28,924	7,861	9,951	17,882	19,913	305,357
合計	42,588	35,429	31,225	30,339	32,731	34,140	40,115	32,823	11,763	14,208	22,140	24,507	352,008

※小中学生の来館者数は団体予約で利用した人数のみ

開館した平成24年度の来館者は42,588人でしたが、令和5年度では24,507人となっており、開館当初の約6割程度となっています。

平成30年度は全国消防操法大会が本県の広域消防防災センターを会場に開催された影響もあり、増加傾向にありましたが、その後のコロナ禍で大幅に来館者が減少しました。その後徐々に回復しているものの従前のレベルまでは戻っていません。

小中学生の来館者数を見ると、コロナ禍の影響もほとんど見られず、微増傾向が続いています。

■施設設備の陳腐化

開館から12年が経過し、施設設備の老朽化や展示内容の陳腐化が見られます。この間、我が国では多くの災害が発生し、様々な教訓が得られ、改正災害対策基本法による避難勧告の廃止など制度面での変化も生じており、それらを取り込んだアップデートが必要となっています。

■災害等への対応

体験ができるコーナーについては、地震、消火、煙避難、風雨、流水と多岐にわたるメニューが選択できる充実したものとなっていますが、災害に事前に備えておくべき対策に役立つ情報や地域の災害リスクについての具体的な情報、あるいは地震後にとるべき正しい避難行動に関する情報などの提供が少ないため、今後の充実が望まれます。

4 国内の防災関連施設の動向

(1) 国内の防災関連施設の調査

以下に示す先進的な防災体験施設の視察を行いました。

設置者	名称	開館年度	所在地
国土交通省	そなエリア東京	H22年度	東京都江東区有明3丁目8-35
東京消防庁	本所防災館	H7年度	東京都墨田区横川4-6-6
静岡県	地震防災センター	H1年度	静岡市葵区駒形通5丁目9番1号
名古屋大学	減災館	H26年度	名古屋市千種区不老町
堺市	総合防災センター	R4年度	大阪府堺市美原区阿弥129-4
兵庫県	人と防災未来センター	H14年度	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2

(2) 国内の防災関連施設の動向

上記の防災体験施設の視察結果を踏まえ、四季防災館における課題を整理すると下記のようなことが挙げられます。

- ▶ VR（仮想現実）やAR（拡張現実）などの視覚的演出等の設備を有していない。
- ▶ 地震体験など体験コーナーに映像が無く、臨場感に欠ける。
- ▶ 避難行動につながるコーナーが必要。
- ▶ ハザード情報などリスクを知らせるツールの紹介コーナーが必要。
- ▶ 被害軽減のために学習成果を家庭等に持ち帰るコーナーが必要。

5 県民、来館者アンケート調査結果

(1) 県民アンケート調査結果

■アンケートの概要

- (1) 調査方法 県公式LINE、X及びHPにより回答用のURLを周知し、Webにて回答
- (2) 調査期間 令和6年6月5日～28日
- (3) 回答方法 Webで回答
- (4) 回収状況 回答数 1,287人（県内：992人、県外：295人）

■施設の認知度

質問項目	回答概要（1-1及び1-3～5まで県内在住者のみで集計）				
1-1 施設の認知度	①知っている 79.1%（785人）>②知らない 20.9%（207人）				
1-2 施設の認知度 （居住地別）	富山市（528人）	知っている	83.5%（441人）	知らない	16.5%（87人）
	県東部（136人）	〃	74.3%（101人）	〃	25.7%（35人）
	県西部（328人）	〃	74.1%（243人）	〃	25.9%（85人）
	県外（295人）	〃	32.5%（96人）	〃	67.5%（199人）
1-3 施設の認知度 （年代別）	10代（25人）	知っている	84.0%（21人）	知らない	16.0%（4人）
	20代（69人）	〃	78.3%（54人）	〃	21.7%（15人）
	30代（187人）	〃	75.9%（142人）	〃	24.1%（45人）
	40代（222人）	〃	83.3%（185人）	〃	16.7%（37人）
	50代（216人）	〃	77.8%（168人）	〃	22.2%（48人）
	60代（182人）	〃	74.7%（136人）	〃	25.3%（46人）
	70代以上（91人）	〃	86.8%（79人）	〃	13.2%（12人）

- 四季防災館の認知度は高く、県内在住者の約8割が知っていると回答しています。
- 年代別の認知度の偏りも小さく、すべての年代で認知度が高い結果となっています。

■来館状況

質問項目	回答概要	
2 知ったきっかけ（複数選択可）	① 知人、友人等から聞いて ② 新聞、雑誌、ラジオ、テレビを見て ③ ホームページを見て	39.0% (306人) 32.4% (254人) 14.8% (116人)
3 来館の経験	① 1回だけ来館 ② 2回以上来館 ③ 来館したことが無い	24.1% (239人) 26.9% (267人) 49.0% (486人)
4 来館の形態（複数選択可） ※来館経験が無い場合は、希望する形態を選択	① 友人や家族等と共に来館 ② 自治会や自主防災組織として来館 ③ 学校の授業等の一環として来館 ④ 勤め先の研修等で来館 ⑤ 1人で来館	60.3% (598人) 17.3% (172人) 13.6% (135人) 12.0% (119人) 7.4% (73人)
5 2回目以降の来館のきっかけ （上位5回答） ※複数選択可 2回以上来館している267人が対象	① 友人や家族等に誘われて ② イベントや講座が開催されていたため ③ 自治会や自主防災組織の行事等で ④ 学校の授業等の一環として ⑤ 勤め先の研修等で	40.1% (107人) 29.1% (78人) 19.5% (52人) 13.5% (36人) 10.1% (27人)

- 四季防災館を知ったきっかけ、来館のきっかけを見ると、知人、友人、家族等からの口コミが多くなっています。
- 来館経験が複数ある人が半数程度います。

■施設の評価

質問項目	回答概要（来館経験がある506人の者のみで集計）	
6 施設の充実度	① 充実している ② どちらかといえば充実している ③ どちらかといえば充実していない ④ 充実していない 充実①+② 90.9% (469人) > 充実していない③+④ 9.1% (46人)	35.4% (179人) 55.5% (281人) 8.8% (44人) 0.4% (2人)
7 リニューアル後の来館意向	① 来館したい ② どちらかといえば来館したい ③ どちらかといえば来館したくない ④ 来館したくない 来館したい①+② 98.6% (499人) > 来館したくない③+④ 1.4% (7人)	77.7% (393人) 20.9% (106人) 1.4% (7人) 0% (0人)
8 施設に求める機能 （複数選択可）	① リアリティのある災害を体験できる機能 ② 地域の災害リスク等を学べる学習機能 ③ 災害への日頃の備え等に関する展示機能	85.0% (430人) 63.2% (320人) 61.7% (312人)
9 施設に求める機能 （自由記載）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能登半島地震。県内で起きた災害状況、テレビで放映されない所など、詳しく状況を学べるという ・ 実際に災害にあわれたひとの生の体験談を聞きたい。 ・ 災害への備えを体感できるコーナー。実際に○日分の過ごす為の水などをカバンなどに つめて避難してみるなど。 	

- 施設の充実度への評価は高く、リニューアル後に来館したい意向も強くなっています。
- 施設に求める機能として、リアリティのある災害体験、備えの体感などの意見があります。

■今後、新設または充実を望むもの

質問項目	回答概要（来館経験がある506人の者のみで集計）	
10-1 新設又は充実したらよいもの	①現場にいるような（没入できる）災害の体験	75.9%（384人）
	②実際に近い、生活場面に即した地震体験	64.2%（325人）
	③住んでいる地域（自宅）のリスクを学ぶ	63.2%（320人）
	④水害（浸水時）の危険の体験	61.1%（309人）
	⑤展示で、日頃の備えや避難行動を学ぶ	47.2%（239人）
	⑥ゲーム（クイズ）で正しい避難の方法を学ぶ	46.4%（235人）
	⑦避難所生活を具体的に考える	40.9%（207人）
	⑧映像で、災害や避難行動等を学ぶ	34.8%（176人）
	⑨災害の記憶を残す	28.7%（145人）
	⑩何度も四季防災館を訪れたくなる仕掛け	28.3%（143人）
	⑪模型で、災害のしくみを学ぶ	27.7%（140人）
	⑫学んだ知識を家庭に持ち帰り、共有する	26.3%（133人）
	⑬地域（地元）で学べる出前講座	23.7%（120人）
	⑭インターネット上での来館前の事前学習	13.2%（67人）
	⑮その他	2.0%（10人）

質問項目	回答概要	
10-2 新設又は充実したらよいもの ※来館経験があり、かつ質問項目6で施設が「充実している」又は「どちらかという充実している」と回答した460人の者のみで集計	①現場にいるような（没入できる）災害の体験	75.0%（345人）
	②実際に近い、生活場面に即した地震体験	63.9%（294人）
	③住んでいる地域（自宅）のリスクを学ぶ	62.8%（289人）
	④水害（浸水時）の危険の体験	61.1%（281人）
	⑤展示で、日頃の備えや避難行動を学ぶ	47.6%（219人）
	⑥ゲーム（クイズ）で正しい避難の方法を学ぶ	45.4%（209人）
	⑦避難所生活を具体的に考える	40.9%（188人）
	⑧映像で、災害や避難行動等を学ぶ	34.1%（157人）
	⑨災害の記憶を残す	28.5%（131人）
	⑩何度も四季防災館を訪れたくなる仕掛け	27.4%（126人）
	⑪模型で、災害のしくみを学ぶ	27.0%（124人）
	⑫学んだ知識を家庭に持ち帰り、共有する	26.7%（123人）
	⑬地域（地元）で学べる出前講座	22.8%（105人）
	⑭インターネット上での来館前の事前学習	12.6%（58人）
	⑮その他	1.5%（7人）

質問項目	回答概要
11 新設又は充実したらよいもの（自由記載）	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食の試食・販売やドリップコーヒー販売等でセルフで水やお湯を使って非常食の体験を楽しめるカフェコーナーなど。 ・クイズラリーや宝探し形式で、親子で楽しく体験、学べるような仕掛け。 ・小さい子どもが楽しみつつも、災害時の対応を学べる仕掛けがあればいい ・災害の記録や体験に関する書籍の充実

- 新設や充実を望むこととしては、現場にいるような（没入できる）災害の体験、実際に近い・生活場面に即した地震体験、住んでいる地域（自宅）のリスクを学ぶ、水害（浸水時）の危険の体験、等への要望が多くなっています。

■四季防災館への意見や要望

<p>12 四季防災館に対するご意見 (主なもの)</p>	<p><ご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月1日の地震で初めて地震の恐ろしさを体感した。災害に対する知識が自分自身全然足りないことに気づいた。災害に対応できる知識が養える施設を作ってもらいたい。 ・体験できる場があることを初めて知り、子供がいたら積極的に体験させたいと思った。 ・災害が増えているので家族で災害に備えているが、実際に避難場所での生活など体験できるとその他必要な準備などが分かると思うので、リニューアル後家族で行きたい。 ・能登半島地震を経験し、台風や大雨による浸水害、土砂災害の可能性にも県民は真剣に向き合わなければならないと感じている。リニューアルを機にそうした意識を高める施設になってほしい。
-----------------------------------	---

質問項目	回答概要
<p>12 四季防災館に対する要望 (主なもの)</p>	<p><体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季防災館で、色々な没入体験がしたい。今後、富山県に起こる災害時に、どう備えるか、どうしていけば良いのか、たくさん学びたい ・3階のスペースももっと体験を入れて欲しい。 ・臨場感のある体験ができる施設を期待。体験型だと、家族で話し合う機会にもなる。 <p><備え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登震災を機に、大地震や浸水被害があったときの備えを整えたい。施設ならではの体験型の学習を自宅に帰ってからの備えに繋がられるような教材があればいいと思う。 ・災害への日頃の備えや家具の固定具等の販売店を作れば如何でしょうか ・浸水、洪水マップの見方の詳細な説明をパネルと映像で学びたい。自分が住んでいる所を具体的に入力して、危険度を理解した上で避難行動としたい。 <p><運営ほか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営など防災対策には女性や若者の視点も大切だと思う。女性や若者の来館者により共感してもらえるように、ぜひ女性や若者の解説員の方も入れてほしい。 ・簡易な模型やおもちゃがあり、子供たちも屋内で楽しく遊びつつ学べるような施設になると良い。全天候型の遊び場を兼ねてもらえると親子連れで訪れる機会も増えると思う。

- 四季防災館に対する要望としては、備えについての学習の充実をはじめ、様々な意見が寄せられています。

(2) 来館者アンケート調査結果

■アンケートの概要

- (1) 調査対象四季防災館来館者のうちアンケートに協力いただいた方
- (2) 調査期間令和6年5月1日～7月15日
- (3) 調査方法来館者に紙で回答を依頼
- (4) 回収状況回答数 384人（県内 339人、県外 42人、無回答 3人）

■来館きっかけ、来館後の意識の変化

質問項目	回答概要	
1 来館経験	① 初めて 57.6% (221人) > ② 過去に経験あり 42.4% (163人)	
2 来館しての防災意識の変化	①以前から意識していたので、あまりかわらない	4.4% (17人)
	② 防火・防災について強く意識するようになった	50.5% (194人)
	③以前より意識するようになった。	41.9% (161人)
	④あまり変化していない	2.3% (9人)
	⑤無回答	0.8% (3人)
3 来館のきっかけ (複数選択可)	①研修会、講習会として	36.2% (139人)
	②自治会、自主防災組織に誘われて	27.1% (104人)
	③ 令和6年能登半島地震を受けて	22.1% (85人)
	④知人、友人、近隣者から聞いて	11.5% (44人)
	⑤インスタグラム (SNS) を見て	5.5% (21人)
	⑥ホームページを見て	4.7% (18人)
	⑦新聞、雑誌、ラジオ、テレビを見て	3.1% (12人)
	⑧その他	6.8% (26人)

- 来館しての防災意識の変化としては、「防火・防災について強く意識するようになった」が最も多く、体験学習の意義が高いことがうかがえます。
- 来館のきっかけは、「研修会・講習会として」、「自治会・自主防災組織に誘われて」とする回答が多くなっています。また、調査時期を反映して、「令和6年能登半島地震を受けて」とする回答も多くなっています。

■コーナーの満足度等

質問項目	回答概要			
4 各コーナーの満足度 (複数選択可) ※全回答者中「よかった」と回答者の方の計	①地震体験 84.9% (326人) ②初期消火体験 59.9% (230人) ③煙体験 59.6% (229人) ④暴風雨体験 54.4% (209人) ⑤防災シアター 49.2% (189人)	⑥流水体験 36.2% (139人) ⑦富山の四季と地形 20.3% (78人) ⑧寄り回り波 14.1% (54人) ⑨水害治水の歴史 10.4% (40人)	⑩高齢者体験 9.9% (38人) ⑪富山と雪 9.6% (37人) ⑫雪崩体験 3.1% (12人) ⑬119番体験 0% (0人)	
5 コーナーの新設や強化	①必要だ 72.7% (279人) ②やや必要だ 20.6% (79人) ③あまり必要でない 4.4% (17人) ④必要でない 0.8% (3人) ※無回答1.6% (6人)		必要①+② 93.3% (358人) > 必要でない③+④ 5.2% (20人)	
6 新設又は充実したらよいもの (複数選択可)	①現場にいるような(没入できる)災害の体験 ②実際に近い、生活場面に即した地震体験 ③住んでいる地域(自宅)のリスクを学ぶ ④水害(浸水時)の危険の体験 ⑤地域(地元)で学べる出前講座 ⑥避難所生活を具体的に考える ⑦ゲーム(クイズ)で正しい避難の方法を学ぶ ⑧映像で、災害や避難行動等を学ぶ ⑨展示で、日頃の備えや避難行動を学ぶ ⑩学んだ知識を家庭へ持ち帰り、共有する ⑪災害の記憶を残す ⑫模型で、災害のしくみを学ぶ		(豪雨、津波、地震を没入体験できるVR) 42.4% (163人) (家庭や学校等、室内の映像、音響の追加) 33.9% (130人) (津波、洪水ハザードマップ、地震震度想定図) 33.6% (129人) (浸水時の車両の開放体験(水圧ドア)など) 30.0% (115人) (VR機器やシアターコンテンツを使用した出前講座) 25.3% (97人) (学校体育館での避難所のジオラマ) 23.4% (90人) (クイズで、わかりやすく命を守る知識を習得) 21.6% (83人) (地震・津波・水害等、シアター映像の充実) 18.8% (72人) (備蓄品、携行品、家具固定、避難行動) 18.0% (69人) (リスクをQRコードで取得、マイタイムライン) 14.8% (57人) (令和6年能登半島地震のパネルの展示) 14.8% (57人) (液状化、津波、地震のしくみの模型など) 14.6% (56人)	

- 地震体験、消火体験など、体を使った体験コーナーの満足度が高くなっています。
- 新設または充実したらよいものとしては、「現場にいるような(没入できる)災害の体験」などの要望が多くなっています。

■再来館の意向等

質問項目	回答概要	
6-2 新設又は充実したらよいもの (自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にあったら役に立つものの説明講習 ・ペットを飼っている人向けの防災避難講座 ・ゲームで学べると子供たちもわかりやすい ・最新の地震体験(能登半島地震入れてほしい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズの販売(リュック等) ・VRで体験してみたい ・水圧ドアの体験は必要だと思う
6-3 新設又は充実したらよいもの (ぜひ必要なもの) ※「是非必要」と思うもの3つ選択	①現場にいるような(没入できる)災害体験 ②住んでいる地域のリスクを学ぶ ③水害(浸水時)の危険の体験 ④実際に近い、生活場面に即した地震体験 ⑤ゲームで、正しい避難の方法を学ぶ	4 1人 2 6人 2 4人 1 7人 1 6人
7 再度の来館の意向	①機会があれば、再度訪れたい。 ②一度訪れたので、展示内容に変化があれば再度訪れたい ③来館したくない ※ 無回答 2.3% (9人)	76.3% (293人) 21.1% (81人) 0.3% (1人)
8 四季防災館全般についての意見や要望	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識が薄れる頃に、また来ます。リニューアルを楽しみにしている。 ・災害が起きた時、どうしたらよいのか、どのような備えが必要か考えることができた。 ・このように災害の体験ができる施設があれば防災意識が高まると思う。 ・とてもよい施設なので周知し、いろんな人に体験していただきたいと思った。 ・解説員の声が小さく聞こえなかったので、マイクを使用してほしい 	

- 再度の来館の意向としては、機会があれば再度訪れたい、が75%を超える回答があり、展示内容に変化があれば再度訪れたい、とする回答を合わせると97%を超える回答がありました。

第2章 リニューアルの方向性

1 目指す方向性

(1) 目指す方向性

- 体験型学習施設として、今回の令和6年能登半島地震の経験や教訓を活かしたリニューアルとします。
- より正しく災害を理解し、災害への備えができるよう、リニューアルを行います。

(2) ありたい姿・実現したい未来

県民が災害を知り、正しく恐れることで、災害への備えができ、安全・安心実感が充実している

- 〈手順等〉・災害の歴史を知り、備える
- ・ 四季防災館での学びを地域・家庭へ持ち帰る
 - ・ 自助・共助を育み、安心実感の充実へつなげる

(3) ターゲット

- 防災への関心が高い方
- 災害関係の体験学習が不足している県民
- 防災・減災をこれから学習する子どもたち

(4) リニューアルキーワード

- (1) 災害の自分事化
 - ・ リアルな災害体験で災害を体感し、知識だけでなく体で災害への備えの必要性を感じ取ります。
- (2) 災害の理解
 - ・ 災害のしくみを正しく知り、適切な避難行動につなげます。
- (3) 地域のリスク
 - ・ 富山の自然や風土、四季の災害、災害の歴史を知り、農業用水路含むお住い周辺の地域のリスクを学びます。
- (4) 備えと避難
 - ・ 日頃どのように備え、災害時どのような行動をとればよいか。自助・共助につなげます。
- (5) 学びのひろがり
 - ・ 学んだ知識を家庭や地域へ持ち帰るとともに、施設の内外問わず、広く学びの機会を増やします。

2 リニューアル方針

前項に示した目指す方向性を踏まえて、体験学習の①テーマ・②流れ・③手法、および④来館者対応と⑤WEB 連携の5つの視点からリニューアルの方針を整理すると以下のようになります。

(1) 体験学習のテーマ

- ▶ 地震に関する体験学習を強化し、地震後の津波や液状化などの被害、取るべき行動などを含めて地震コーナーの充実を図ります。
- ▶ ハザードマップなど地域の災害リスクに関する情報の周知を強化します。
- ▶ 日頃からの備えの実践につながる具体的な情報提供を行います。
- ▶ 冬の災害など富山らしいテーマをより充実したものにしていきます。
- ▶ 能登半島地震の教訓や記憶の伝承を充実したものにしていきます。

(2) 体験学習の流れ

- ▶ 体験前に心構えを持ってもらい、体験全体の流れを伝えるガイダンス機能を充実します。
- ▶ 様々な体験のまとめとして、日頃の備えの実践に結び付く学習を行う流れをつくりま

(3) 体験学習の手法

- ▶ 体験学習の効果を高めるため、リアリティや没入感が感じられる手法、参加性の高い手法を取り入れます。
- ▶ 最近の映像技術、IT技術の進展を踏まえた展示手法の検討を行います。
- ▶ 子どもが理解しやすく、興味をもって楽しく学べる展示手法とします。

(4) 来館者対応

- ▶ 来館者へのホスピタリティの充実に努め、多様な来館者属性に応じたきめ細かな案内や指導を行います。
- ▶ 団体だけでなく個人の来館者でも充実した体験学習ができるコースを整え、県内外の来館者層の拡大、リピーターの増加を図ります。

(5) WEB連携

- ▶ インターネットを利用したWEB連携を強化し、来館前後の予習復習への活用、家庭での備えにつながる情報提供、インバウンド（訪日外国人）向けの発信等を推進します。

第3章 展示計画

1 展示全体構成

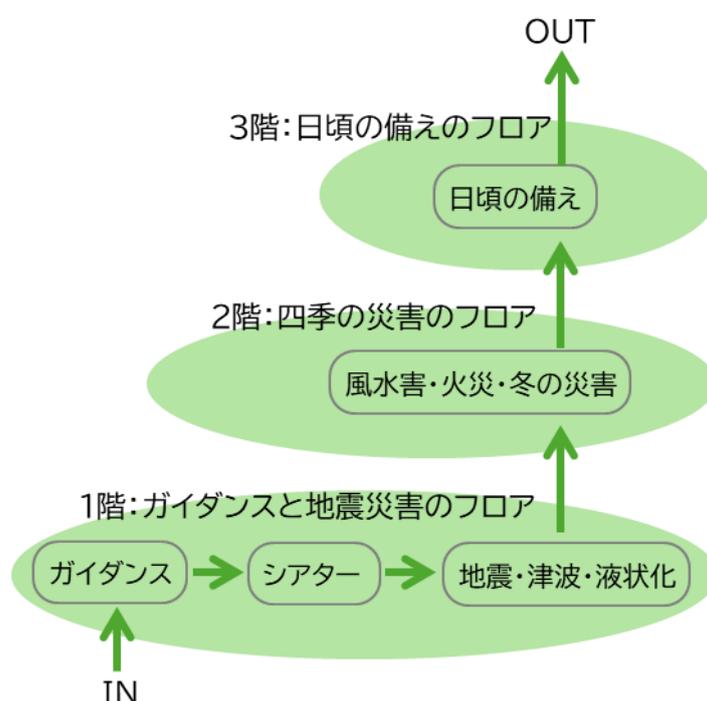
前章で整理したリニューアル方針に基づき、具体的な展示リニューアル計画を検討します。

(1) フロア構成

地震に関する体験学習の強化や日頃からの備えに関する情報提供の充実など、リニューアル方針をふまえたフロア構成を検討します。

従来よりフロア毎のテーマを明確化し、1階を地震災害、2階を四季の災害、3階を災害への備えを中心としたフロアとして展開することで、フロアの性格を明確にし、来館者にとっても集中しやすく、わかりやすい空間構成を目指します。

- ▶ 1階は、現在の地震体験コーナーを充実させるとともに、地震に伴う津波・液状化のリスク、地震時の避難行動までワンフロアで体験学習できる構成とします。
また、体験に先立って、心構えと目的意識をもってもらうガイダンスコーナーとシアターを設けて、ここを起点に各体験へと進んでもらいます。
こうした要素をもつ「ガイダンスと地震災害のフロア」として構成します。
- ▶ 2階は、四季の災害とからめて、定番の体験として定着している消火・煙避難・風雨・流水の4体験を残し、冬の災害コーナーの見直しとクイズコーナー等の新設により充実を図ることにより、「四季の災害のフロア」として整理します。
- ▶ 3階は、これまで利用度があまり高くありませんでしたが、日頃からの備えを中心とするフロアとして再生させ、「日頃の備えのフロア」として充実を図ります。



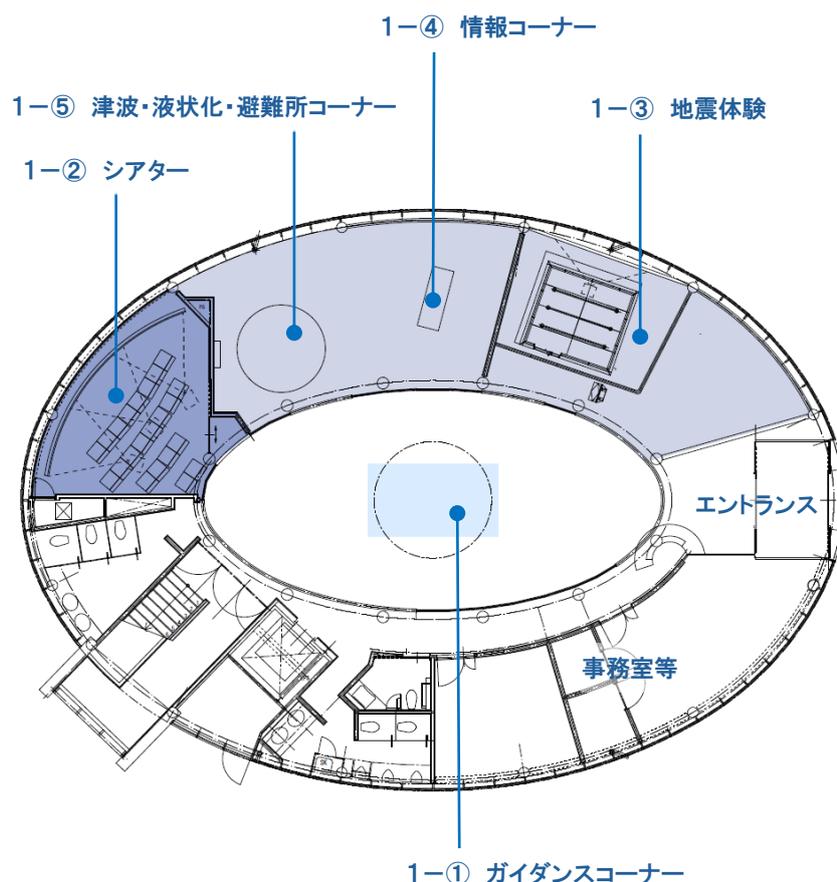
(2) 体験の基本的な流れ

- 1階のガイダンスとシアターで心構えと目的意識をもってもらい、その後の体験の効果をも高める流れを構築します。
- 1階及び2階の体験学習の最後には3階で日頃の備えについて学んでもらい、帰宅後の対策の実践につなげます。

2 ゾーニング

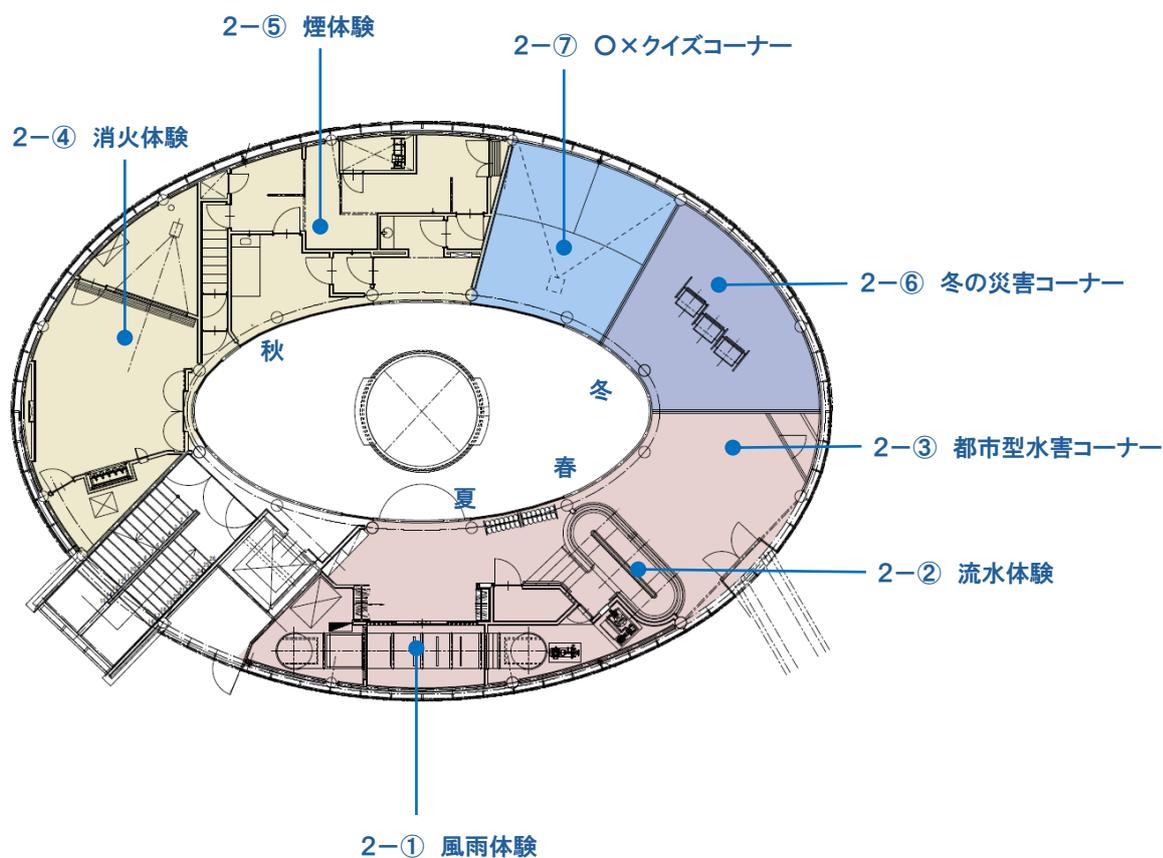
(1) 1階ゾーニング

- 1階には、体験前の心構えをつくるガイダンスコーナーとシアター、地震災害に関する体験学習ができるコーナーを配置します。
- ガイダンスコーナーはエントランスを入った中央の空間に配置し、来館者に対して体験前のガイダンスを行ってから体験学習へ進んでもらいます。
- 地震災害に関連する体験学習を一連の空間に集約し、効果的な体験学習を展開します。地震体験装置は設備的な制約のため現在の位置から移動させることが困難なことから、現在の位置のままとし、その周囲で地震関連の体験学習（津波、液状化等）を展開します。
- シアターは、ガイダンスコーナーや階段・エレベータと近接して、最も奥に配置し、地震関連の体験学習をしている来館者との動線の交錯を避けることとします。



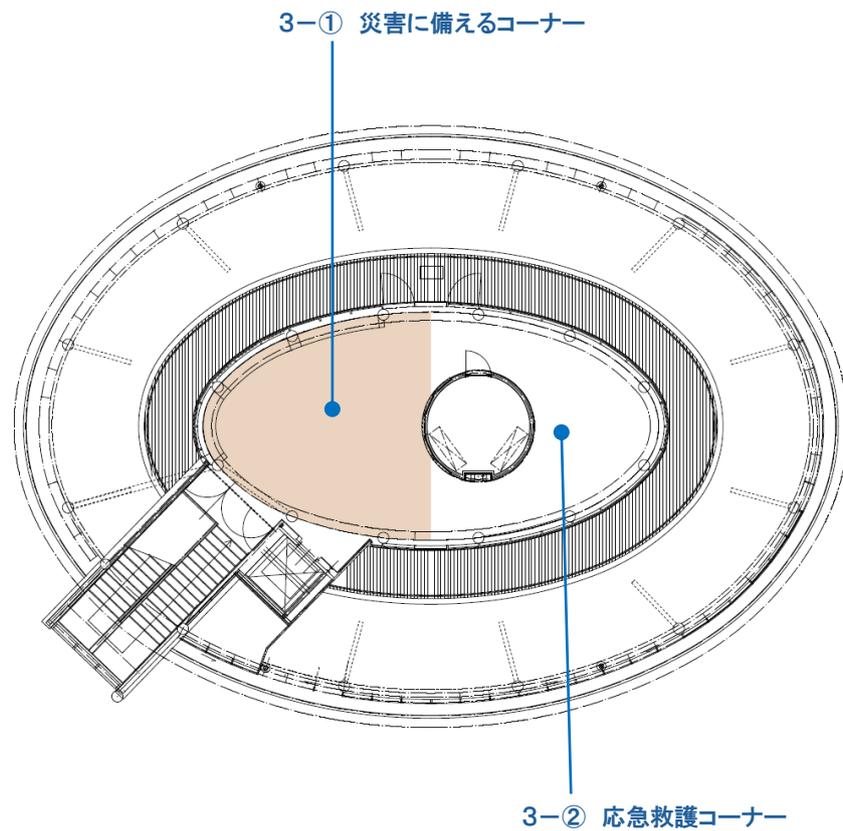
(2) 2階ゾーニング

- 2階では、四季防災館の特徴でもある、富山の春夏秋冬それぞれの季節で起こりやすい災害についての体験学習を展開します。
- 風雨体験、流水体験、消火体験、煙避難体験の4コーナーについては定番の体験として定着しており、設備的な制約から現在の位置のままで維持します。
- 現在、雪崩体験や冬の災害コーナーがあるスペースについては、ゲリラ豪雨や線状降水帯などにより近年頻発している都市型水害に関するコーナー、災害時の対応についてのクイズコーナーなどを配置して、新たな展示空間としてリニューアルします。



(3) 3階ゾーニング

- 3階については、これまで利用度があまり高くありませんでしたが、1階・2階での体験の後、必ず訪れて、日頃からの備えについて学ぶコーナーとしてリニューアルを図ります。
- また、来館者の要望に応じてオプションに行われている応急救護等の体験が実施できるエリアについては、現状の機能を維持します。



3 導入アイテムの検討

導入するアイテムについて検討を行います。コーナー名称の横に【新規】とあるものは「新たに設けるコーナー」を意味し、【大幅改修】は「既存コーナーの内容を見直し、演出手法を刷新するコーナー」、【設備更新】は「現機能を維持し、設備の不具合解消に重点を置くコーナー」をそれぞれ意味しています。

(1) 1階 ガイダンスと地震災害のフロア

■1-① ガイダンスコーナー【新設】

- ▶ 来館者に、体験を始めるに当たっての心得や注意事項を伝え、グループ分けなどをする場を設けます。
- ▶ 映像装置を設けて、体験の予告編となる映像を投影するとともに、注意事項を表示して周知を図るなど多目的に活用します。



本イメージは現時点の途中経過のため内容が変わる可能性があります。

■1-② シアター(VR)【大幅改修】

- ▶ 地震災害、気象災害などをテーマに、災害を知り、防災減災に向けた行動を促す映像を上映します。
- ▶ 大型団体向けの通常方式での上映ができ、少人数向けのVR（仮想現実）映像の上映も可能なシステムとします。
- ▶ VR映像では、ゴーグルを用いて災害現場にいるかのようなリアリティを感じられる映像を提供します。



参考：人と防災未来センター

■1-③ 地震体験【大幅改修】

- 起震装置に乗って地震の揺れを体感し、地震の恐ろしさを感じます。
- スクリーンに装置の揺れに連動する映像を投影して、体験効果を高めるとともに、周囲の来館者にも臨場感を感じてもらいます。
- 映像では落下物や家具の転倒など地震時の危険をリアルに表現します。

■1-④ 情報コーナー【新規】

- 津波や液状化の危険性など、地域別の災害リスクや、農業用水の転落事故等の身近なリスクについての情報を提供します。床マップと検索モニターで自分の家や地域にどのようなリスクがあるかを知ることができます。

■1-⑤ 津波・液状化・避難所コーナー【新規】

- 令和6年能登半島地震における建物被害、道路やライフラインの被害、津波や液状化の被害などの状況をわかりやすく伝えます。
- 地震による揺れや津波の予測、液状化の可能性など、地域リスクに応じた事前対策や発災時の正しい避難行動についての情報提供を行います。
- また、避難所に関する情報、避難生活を想定した準備、避難所での助け合いの重要性などの情報提供を行います。

(2) 2階 四季の災害のフロア

■2-① 風雨体験【設備更新】

- 定番の体験として体験効果も高く、来館者アンケートでも高評価であることから、現在の機能を維持していく。
- 経年劣化が生じている設備については、リニューアルを機に更新する。



現在の体験の様子

■2-② 流水体験【設備更新】

- 定番の体験として体験効果も高く、来館者アンケートでも高評価であることから、現在の機能を維持していきます。
- 経年劣化が生じている設備については、リニューアルを機に更新します。
- 農業用水路の転落事故防止についても啓発していきます。



現在の体験の様子

■2-③ 都市型水害コーナー【新規】

- ゲリラ豪雨による急な水位上昇や内水氾濫など、市街地における水害の危険性について、体験を通じて学びます。
- 浸水によりドアが開かないといった状況を体験し、豪雨が近づいている場合にとるべき行動を学習します。

■2-④ 消火体験【設備更新】

- 定番の体験として体験効果も高く、来館者アンケートでも高評価であることから、現在の機能を維持していきます。
- 経年劣化が生じている設備については、リニューアルを機に更新します。



現在の体験の様子

■2-⑤ 煙避難体験【設備更新】

- 定番の体験として体験効果も高く、来館者アンケートでも高評価であることから、現在の機能を維持していきます。



現在の体験の様子

■2-⑥ 冬の災害コーナー【大幅改修】

- 降雪や低温によって起こる雪国ならではの危険について学習し、備えの大切さを学びます。
- 富山の冬の街のジオラマなどにより、道路での転倒、雪下ろし時の転落、渋滞による車の立ち往生、車のスリップなどのリスクを表現し、予防対策の啓発を行います。
- 令和3年の県内における大雪等の近年の大雪災害の展示を行います。

■2-⑦ O×クイズコーナー【新規】

- 「津波警報が出されたときにどう避難すればよいか」、「ゲリラ豪雨が迫ってきたらどう行動するか」など、災害時に遭遇する様々な場面で取るべき最善の行動とは何かをクイズを通じて学びます。
- スクリーンに災害時の状況が映し出され、その場で取れる選択肢が表示されます。どちらが良いかを制限時間の中で選択する体験です。
- 一緒に体験する来館者同士の交流を生み、ともに考えるきっかけとなります。
- 子どもたちが楽しんで学べる体験となるよう工夫します。



参考：人と防災未来センター

(3) 3階 日頃の備えのフロア

■3-① 災害に備えるコーナー【新規】

- 各種体験で重要性を学ぶ「日頃からの備え」に向けて、実際に行動する際に役立つ情報を具体的に提供します。
- 住宅の耐震化、家具の固定、家庭での備蓄、非常持ち出し品の準備など、日頃からの備えの実践方法を紹介します。
- 備えておきたい防災グッズについては手に取ってみることができるほか、それらの防災グッズを販売する仕組みも検討します。

■3-② 応急救護コーナー【機能維持】

- 現在行われているAED（自動体外式除細動器）体験を中心とした応急救護体験の機能を維持していきます。
- 来館者のニーズに応じて、収納スペースから訓練用人形などの備品を出し入れすることで対応します。



現在の体験の様子

4 配慮すべき点

(1) 更新性

将来的な展示更新を想定し、情報更新等が容易な展示システムを検討します。

(2) ユニバーサルデザイン

■車いす利用者等への配慮

車いす利用者や高齢の来館者の方々にも負荷の少ない空間づくりに配慮し、安全に安心して利用できるように十分な通路幅や、段差のない空間づくりを行います。

■見やすさへの配慮

設置位置、デザイン、色彩に配慮し、誰でも見やすいグラフィックや使いやすい展示什器を設けます。

(3) 多言語表示

インバウンド（訪日外国人）の来館者への配慮として、WEB連携との役割分担を含め、多言語表示について検討します。

第4章 管理運営計画

1 管理運営の現状

(1) 指定管理

■指定管理者

現在、四季防災館の管理運営は以下の指定管理者により実施されています。

団体名	公益財団法人 富山県消防協会
主たる事務所の所在地	富山市惣在寺1090番地 1
代表者	代表理事会長 鹿熊正一
指定期間	令和2年4月1日から令和7年3月31日まで(5年間)

■指定管理者の業務範囲

指定管理者が行う業務の範囲を以下に示します。

- ・ 四季防災館の施設及び設備の維持管理
- ・ 受付・案内・展示解説
- ・ 特別展の事業企画・実施
- ・ 研修会等の事業企画・実施
- ・ 防災に関する資料収集・保存
- ・ 施設PR活動
- ・ ホームページの管理・更新
- ・ 備蓄倉庫の見学受付・案内
- ・ その他

■職員の配置状況

ア 館長（協会事務局長兼務） 1 名
イ 業務課長（嘱託 消防職員OB） 1 名
ウ 事務職員（嘱託） 1 名
エ 解説員（嘱託 消防職員OB） 6 名
オ 受付（賃金職員） 1 名
計 10 名

■講演会等の開催状況

- ① 高齢者防災講座（1回目） 6月4日（日）3時間 15名参加 小林防災士
内容：「火災や災害から逃げ遅れを防ぐための日頃の備え」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、非常食の配布・説明
- ② 女性のための防災講座（1回目） 6月25日（日）3時間 23名参加 佐伯防災士

- 内容：「女性のための防災講座」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、非常食の配布・説明
- ③ 県民防災講座（1回目） 7月9日（日）3時間 17名参加 野原防災士
内容：「火災や災害から逃げ遅れを防ぐための日頃の備え」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、非常食の配布・説明、来館アンケート実施
- ④ ジュニア防災講座（1回目） 7月27日（水）3時間 37名参加 中井防災士
内容：「命を守るために」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、記念撮影、非常食の配布・説明
富山市消防音楽隊演奏見学、来館アンケート実施
- ⑤ ジュニア防災講座（2回目） 7月28日（木）3時間 67名参加 藤本防災士
内容：「命を守るために」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、記念撮影、非常食の配布・説明
来館アンケート実施
- ⑥ 県内の災害の教訓を学ぶツアー 8月20日（日）9時00分から16時30分まで
25名参加内容 村上防災士
内容：「県内防災施設見学及び体験」
- ⑦ 女性のための防災講座（2回目） 9月24日（日）松原防災士
（相手方の都合によりキャンセル）
- ⑧ 県民防災講座（2回目） 10月29日（日）3時間 43名参加 宮本防災士
内容：「富山防災メモ」「富山県の活断層について」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、非常食の配布・説明
- ⑨ 高齢者防災講座（2回目） 11月26日（日）3時間 37名参加 小林防災士
内容：「災害から自分を守るための知識の習得」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、非常食の配布・説明
- ⑩ ふるさと災害講座 12月10日（日）3時間 39名参加 小瀬防災士
内容：「地震や水害への備えと避難方法の習得」
「富山県で起きた過去の災害の歴史から学ぶ」
備蓄倉庫見学、災害等体験学習、非常食の配布・説明
- ⑪ 応急手当講習会 随時（防災館利用団体の希望により）33回開催 449名受講
内容：3階ラウンジでレサシアンによりAED使用法を含む救命、心肺蘇生法等
- ⑫ 外国人を対象とした体験学習を実施 566名受講
- ⑬ 特別展
- ・県と共催で「ジュニア防災フェスティバル」を開催（8月11日（木・祝））（2月10日（土））
 - ・特別企画展「関東大震災から100年」（9/1（金）～10/31（火））
関東大震災が発生し100年目となり、地震発生の解説や写真をパネルで展示またモニターにて当時の映像を放映し、来館者に地震に対する知識と日頃からの備えの再認識を図りました。
 - ・小中学生「防火ポスター作品展」（2月1日（木）～2月29日（木））
県と共催で募集した防火ポスター図案71点を展示し防火意識の普及啓発を行いました。

■利用促進に向けた活動

- ・越中ふるさとチャレンジのスタンプラリー対象施設に参加した。
- ・ホームページの新着情報（研修計画、研修内容、施設案内、利用案内など）を常に更新
- ・インスタグラムを開設し来館者に新着情報（研修計画、研修内容、施設案内、利用案内など）を提供した。
- ・消防協会役員会で利用状況を説明し、役員の管内団体へ利用を依頼した。
- ・雑誌、メディアの取材に積極的に対応し広く県民へ周知した。
- ・四季を通じた家族向けイベントの開催 ゴールデンウィーク特別企画（4/29～5/7）
お盆特別企画（8/13～8/16）、ハロウィン企画（10/28～30）、クリスマス特別企画（12/22～12/24）、新年福引抽選会（1/4～1/31）
いずれも来館（体験）されたご家族又は子供（全員）へ防災グッズ、文具セット等をプレゼント
- ・ファボーレとのタイアップ企画を実施（4/29～5/14、7/22～8/27）
ファボーレ内で四季防災館のポスター（特別企画）の展示と四季防災館でファボーレの割引券を配布

出典：令和5年度 富山県広域消防防災センター（四季防災館）事業実績報告書

2 今後の管理運営

（1）多様な来館者に対応する体験プログラム

従来より体験学習メニューが増加することから、団体向け体験プログラムのバリエーションが増えることが期待されます。

地震対策を中心とするプログラム、地域の災害リスクと日頃の備えに重点を置くプログラムなど、団体の属性やニーズに応じたプログラムを提供します。

また、従来より個人グループがフリーで体験学習できるコーナーも増えることから、個人向けの標準コースなどの検討も行います。

（2）広報活動の積極的な展開

今回のリニューアルを機会に、四季防災館の認知度向上・来館者増加に向けて、ホームページやSNSなど様々な広報媒体を活用し、広報活動の積極的な展開を図ります。

第5章 施設整備計画

1 整備スケジュール

(1) 整備方針

学校や防災関係者をはじめ四季防災館の利用者への影響を最小限とするため、短期間での施設整備を図り、早期のリニューアルオープンを目指します。

また、リニューアル工事に伴う休館期間をできるだけ短縮できるように努めます。

(2) 整備スケジュール

以下に整備スケジュール案を示します。

令和6年度から設計業務、令和7年度に設計・施工業務を推進し、令和8年度の初頭にリニューアルオープンを目指します。

令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本設計 (R7.1～R7.4)	実施設計・施工 (R7.5～R8.3)	リニューアル オープン